【実践内容】

- ◎ 好奇心をもって読み進め、楽しく豊かな読み取りをさせたい。
- ◎ 説明的文章を読み、物事を新しく知ったり、いろいろな本を読みたくなったりするような雰囲気を作り、読むことの楽しさを見つけられるようにしたい。

<単元目標>

- ・ 写真を手がかりにして書かれていることの大体をつかむ。
- ・ 生きものへの関心、形態と生活の関係についての知的興味を通じて、国語学習への興味、関心を高める。

<学習の流れ>

導入 五種類のくちばしの写真を提示することにより、興味を持たせる。

中 くちばしの形と、生活（食べ物）との関連に気付かせる。

人間が使っている道具との関連に気付かせる。

「きつつき」 きりを用意。

とがっていないものでも木をつつかせる。

なぜ、木をつつくのかを考えさせる。

「おうむ」 缶きりを用意。

缶きりで、むかせる。缶をきらせる。

なぜ、からをむくのかを考えさせる。

「はちどり」 ストローを用意。

給食の時の牛乳の飲み方を思い出させる。

細長いと、なぜいいのか考えさせる。

まとめ クイズや・本をつくる。

教科書に出ている鳥のくちばしについて文章を書く。靴べらを用意。

【反省】

なぜを考えることにより、くちばしの形と好きな食べ物や、食べ物がある場所の関係が見えてきた。いろいろなくちばしがあることに驚きを持つ事ができた。食べ物をとるために、くちばしの形が都合よくなっていることも、大きな驚きになった。人間が使っている道具が、鳥のくちばしを参考にしてできているのかもしれないことにも感動し、家へ帰って目を輝かせて話をした子がいる。実際に木をつついたりしたことで、さらに読みが深まった。鳥の見方が少し違ってくるのでは・・・。